

追悼・小林恵美子

## 恵美子さんとの縁

青木 裕子

信州にはいつとはなしにご縁ができました。上田の駅前にある上田情報ライブラリーで朗読会を行うようになって三年がたちます。今年も五月二十日の朗読会のあとは上田に泊まり、翌日は夜、軽井沢でのスケジュールが入っていました。朝目が覚めると信州の空は気持ちよく晴れ渡り、日中時間があるので、同行のチエンバロ奏者、小澤章代さんをさそって、長野の先の須坂まで足を延ばすことにしました。

私にとって浄運寺に何うのは二度目です。

昨年の十二月十一日、朗読仲間だった絵門ゆう子さんと私は「無言館」の館主、窪島誠一郎さんに案内されて須坂の名刹浄運寺を訪れました。

絵門さんは自分と同じガンの患者さんのために、応援歌のように力強く明るく医療と社会のありかたにメッセージを送っていました。

窪島さんと浄運寺のご住職小林覚雄さんとは旧知の間柄であり、小林さんの奥さまの恵美子さんがご病気で、絵門さんのファンなので、ぜひ励ましてくれないだろうか、ついて

は浄運寺を訪ねたあと「信濃デッサン館」横の「槐多庵」で住職夫妻のためにも朗読会を開かないかという窪島さんの提案を、絵門さんが快く引き受けてくれたからでした。

恵美子さんはそのときは確かに抗ガン剤の副作用で毛髪が抜けたとかで帽子は被っていたらっしゃいましたが、さすがにお寺を切り盛りなさるお元気で沢山のお料理を用意して下さり、心からのおもてなしを私達は受けたのでした。浄運寺のお庭の静けさの中に、別室での恵美子さんと絵門さんの語らいの時間がゆっくりと過ぎ、時折談笑の気配さえたまたようのを、お二人の出会いの光明のように感じていました。

恵美子さんはそのあと三月もたたないうちに亡くなられました。ご住職から伺ったのですが、恵美子さんは最後の意識がある中で「わたしも絵門グループの一員に加わったの」

「絵門さんが言うように、ガンの患者さんが気軽に何でも相談できるネットワークができれば協力したい」とおっしゃったそうです。そのことをご住職は何回も繰り返し言葉にな

さっていました。妻の遺志として絵門さんの志を生かすことであればぜひお手伝いさせていただきたい、とおっしゃって下さいませ。

恵美子さんのご仏壇のわきには、あの時絵門さんと恵美子さんと私が三人で写った写真、左の写真がさがられていました。恵美子さんを真中にして右の私は花瓶に隠れるよう



青木さん(右)、絵門さん(左)と恵美子=昨年12月11日、浄運寺

私もなんだか奇しくもこうやって一枚の写真に収まって、きつとまたお会いするのでしよう。

「絵門さんのおかげで、恵美子さんという素晴らしい人柄に触れることができ、きちんと恵美子さんのご冥福を祈りたくて須坂まできました。絵門さんほんとうにありがたう……」とご仏壇とそして写真に手を合わせました。

その後しばらくたって、絵門さんのご夫君の三門健一郎さんより「最近ようやく妻のパソコンをひらく気になりメールしました」と小さな集いのお誘いを受けました。出席を申し出ると「たくさん飲んで、たくさん食べて、たくさん泣きましょー」との返信に涙ができました。その十四、五人の会はご夫君が「もつと泣くかと思つたのに……」と挨拶を締めくくるほど、大いに絵門さんの思い出を語り合つて盛り上がったのですが、私が浄運寺でのひとときを語ると

「ぜひ訪ねてみたい」と声があがりました。これもきつとご縁なのでしよう。ご夫君と絵門さん縁の方々を乗せて、私、運転してゆきます。絵門さんが「仏さまにも、月や星にも、境内の木々にも、このすがすがしい空気にもお祈りするの」と声を放っていた緑の浄運寺に。魂祭のころに。

(NHKアナウンサー)